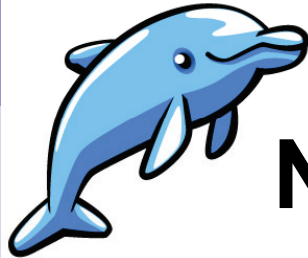




北海道大学の想定

- 総合大学
- 学生数: 1万2千人
- 教員数: 500人
- プレゼン対象: 上層部

北海道大学における
機関リポジトリ導入計画
北海道大学学術成果コレクション



Nankaido university **A**cademic **C**ollection

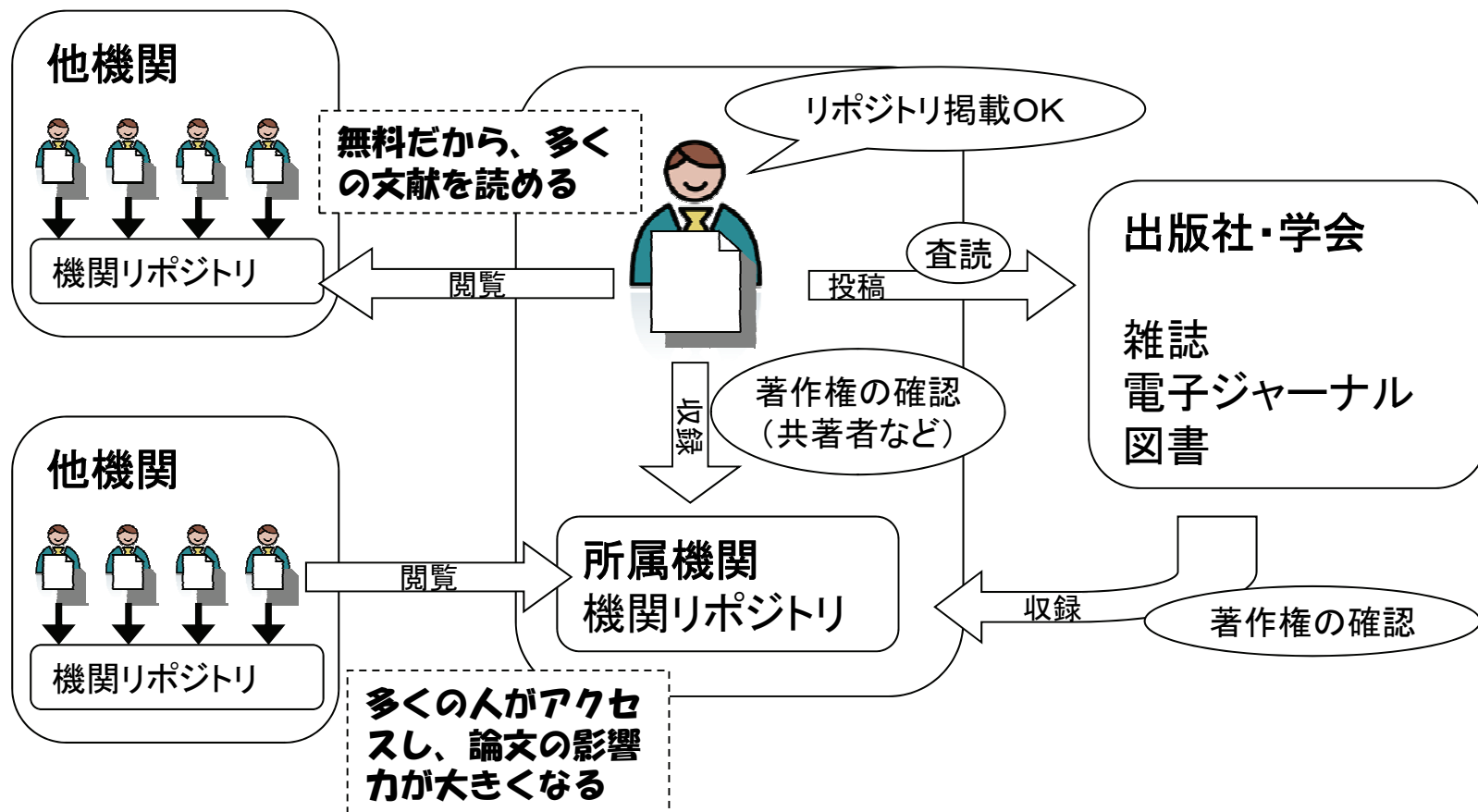


本日の流れ

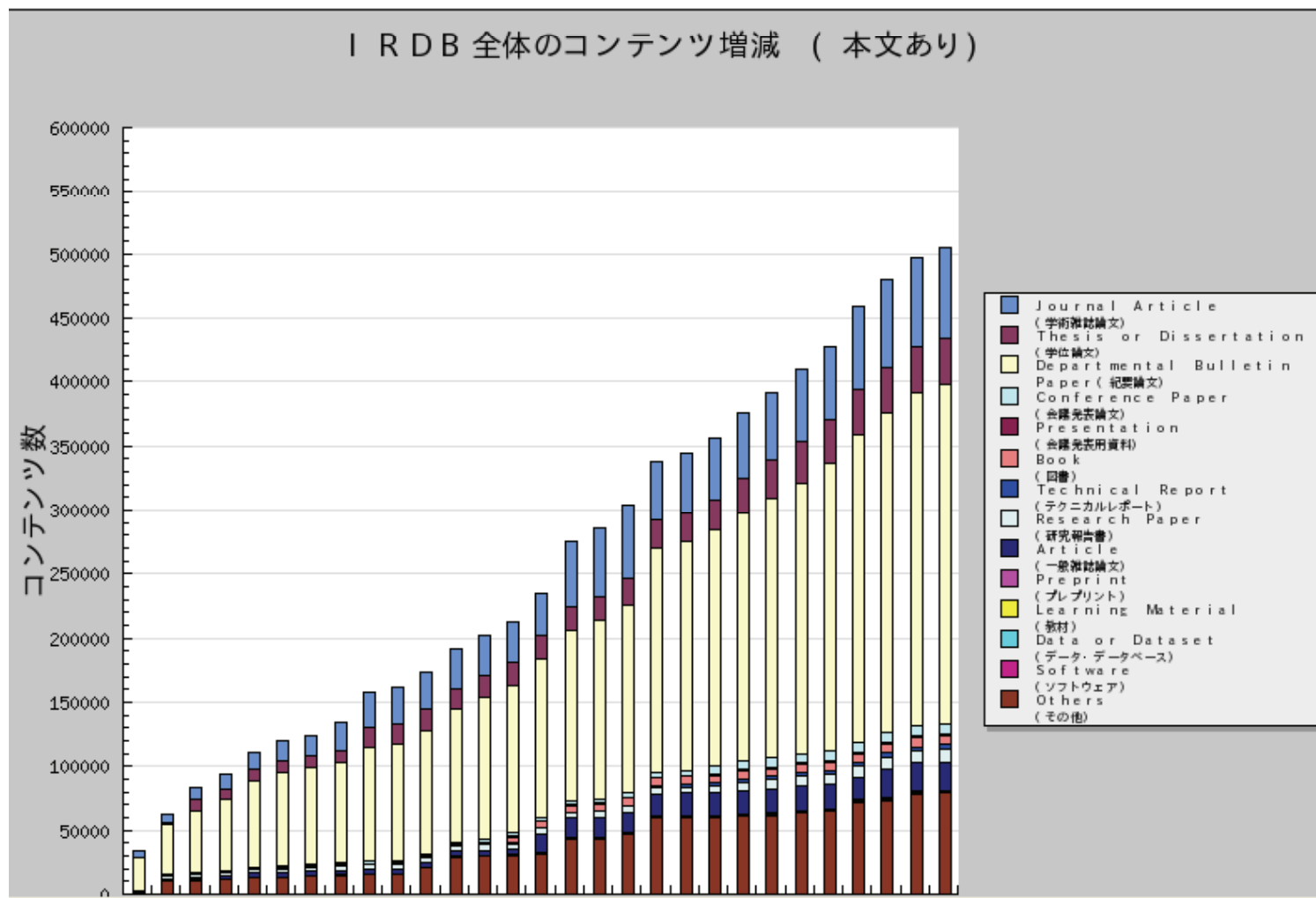
- 1 機関リポジトリとは
- 2 国内における機関リポジトリの現状
- 3 機関リポジトリ公開のメリット
- 4 大学にとってのメリット
- 5 大学のブランド力向上
- 6 これまでの取り組み
- 7 導入スケジュール
- 8 リポジトリ導入経費案

1 機関リポジトリとは

大学内で生産された学術情報を収集・蓄積・配信するためのサービス



2 国内における機関リポジトリの現状



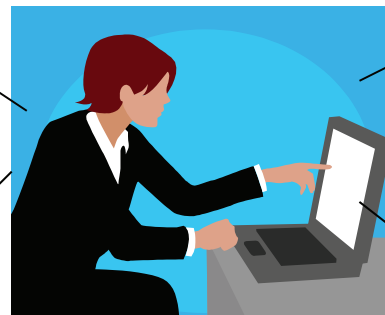
3 機関リポジトリ公開のメリット

■ 研究者にとってのメリット

- ・研究成果の**可視性 (visibility)**と**速報性**の向上
- ・新たな研究成果発信ルート**の確立**
- ・研究成果の**管理・保存が容易**

多くの人の目に触れ、研究の認知度が高まる

登録することで確実に保存、永続的に継承



高価な契約の電子ジャーナルが見られなくても、リポジトリから研究成果を入手

引用率の向上

4 大学にとってのメリット

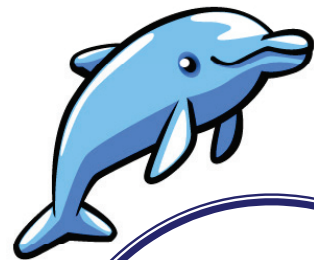
- ・教育・研究活動を明示化することで、大学の社会的責任を果たすことになり、社会・地域貢献の推進につながる
- ・教育研究機関としてのブランドの向上



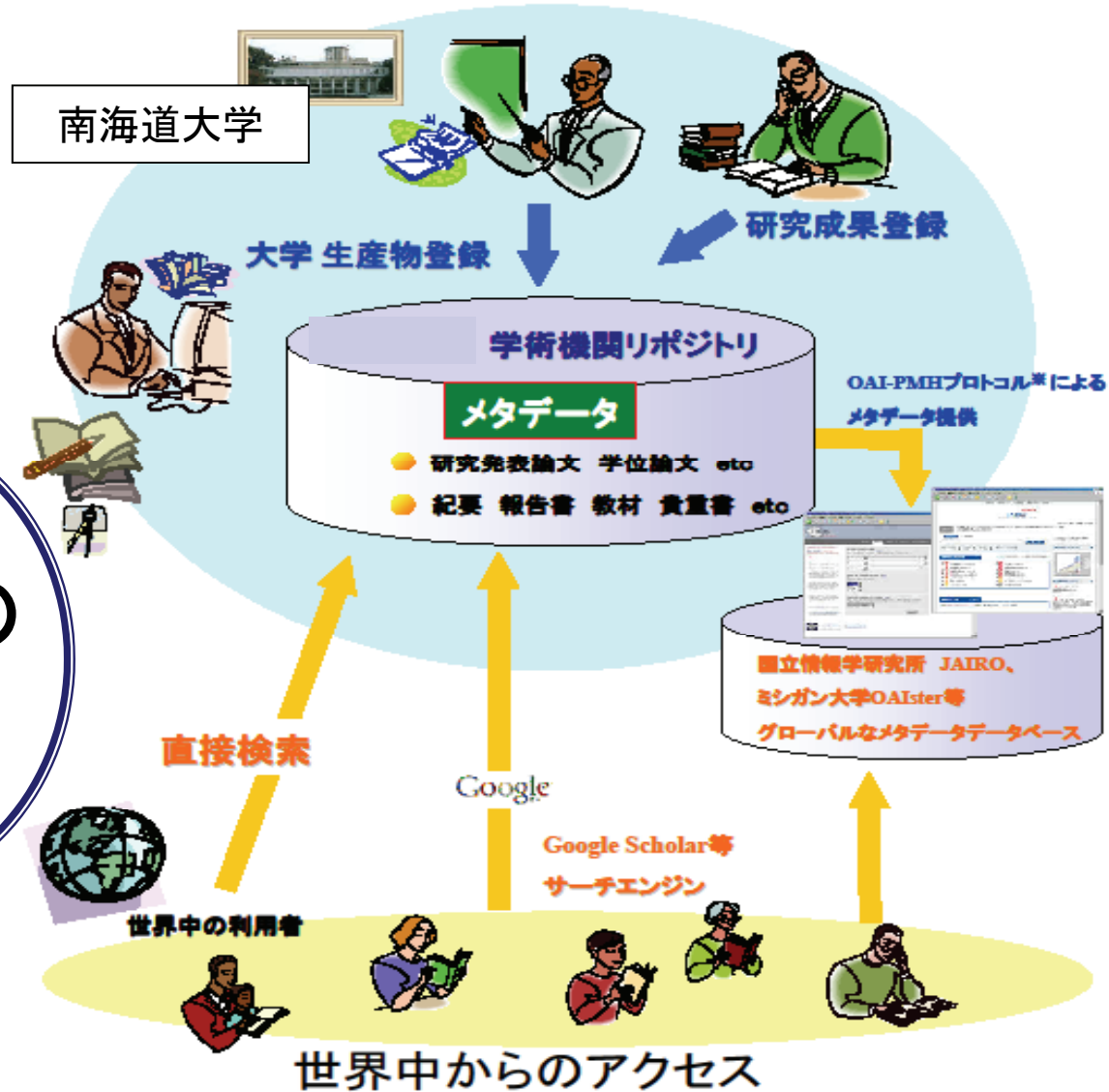
研究成果を学内外へ無償で発信・公開

本学リポジトリで公開された研究成果が、世界中の研究者、教育・研究機関から評価される

5 大学のブランド力向上



世界への
発信



*Open Archives Initiative Protocol for Metadata Harvesting
メタデータの一括交換に用いられる国際通信規約



6 これまでの取り組み

20年12月 調査・情報収集

21年4月 Working Gr. 発足

21年8月 コンテンツ収集

これまでに収集したコンテンツ

- ・紀要 150論文
- ・科研費報告書 30論文

今後雑誌論文等を収集していく予定



7 導入スケジュール

21年9月～ 予算概要説明

12月～ コンテンツ収集、著作権処理
データ入力

22年4月～ テスト公開

22年9月 運用開始

8 リポジットリ導入経費案

費目	種別	委託費	備考
設備費	機械装置	300万円	
	計	300万円	
人件費	事務職員	120万円/年	1名非常勤
	計	120万円	
運営費	広報費	50万円	ポスター作成、講演会、グッズ作成
	システムサポート費	100万円/年	
	計	150万円	
合計		570万円	

* 助成金申請予定